

二〇〇四年

虫干法会のお知らせ

七月

二十四日より
二十七日まで

吉野せいさんは『涙^{はな}をたらした神』の中で、「人間ちや、泣きながら歩いているうちにほんとの自分を見つけてくるもんだよ」と語っているところがありません。開拓農民として汗水を流し、身体にむちうって働いていくなかで感得した吉野せいさんの実感でしょうが、「泣きながら歩いている」ようなものが、人間の一生涯かもしれません。泣きながら歩いているのは、特別な人ではなく、どんな人でも、そのような一生涯を送っているのだとおもうのです。

(宗 正元)

人間、戦争に学ぶことなど何ひとつない。それは「悪」の一語に尽きる。それに対し、結果的には「惨禍」を呈しても、地震は私たちに数々の教訓をのこしてくれる。何故か。おそらくは、大自然の、営みのひとつだからにちがいない。
(住井するゑ)

今年も表記のごとき日程で虫干法会をお勤め致します。お誘い合わせお参り下さいますようお願いしております。

また、二十六日午後一時より、納骨堂でお経があげられます。